

関わりを持って

中央市立玉穂中学校三年 泉田 将吾

僕は最近オリンピックを毎日のように見ている。夏休みの宿題そっちのけで見えてしまうこともあった。僕は選手たちのお互いを尊重しながら共に戦い抜いていく姿に感動し、とても勇気づけられた、

オリンピックについて僕は、一学期の保健体育の授業で学習した。オリンピックにはオリンピズムという理念があって、スポーツを通じて心身を鍛えること、世界の人々と交流すること、平和な世界を築くことが目的とされている。そうやって、世界をよりよい方向に進めようとしている。

僕はオリンピックの結果が気になって、ネットを使ってニュースを見る。その中で、選手に対する誹謗中傷について取り上げている記事が目飛び込んできた。金メダルを取った選手に対して、海外の人が、見ていて辛くなってくるような言葉をSNS上に投稿しているようだった。そして、それを受けた選手自身が対応するような事態になっていた。選手の身になって考えてみると、見知らぬ人から心無い言葉を浴びせられて、自分だったらとても耐えられないと思う。でも、自分もオリンピックを見ていて、

「これはちょっと違うんじゃないか。」

と多少不満に思ってしまうこともある。たとえそう思っても、一歩踏みとどまって、事実を受け止めて、尊重できれば、こんなことにはならないと思う。実際に、SNS上の誹謗中傷がきっかけで、自ら命を断ってしまうという悲惨な出来事が起きてしまった。だからこそ、そんなことを二度と起こさないように、この出来事やオリンピックをきっかけに、より多くの人がSNS上でのふるまいやモラルについて考えてほしい。自分の何気ないコメントが、人の人生を左右してしまうことだってある。自分の発言に責任を持って、もう一度深く考えてほしいと思った。

このように、ネットで人権を侵す行為が増えているが、僕はもっと関心を高めるべきことがあると感じている。それは、世界各地で行われている圧政や紛争だ。僕は、定期テストの時事問題の対策をするため、ニュースをたくさん見ていた。そこで、毎日目にしていたのは、ミャンマーの軍事政権のことや、イスラエルのことだった。僕は、世界的に人権を否定するような悲しい歴史「戦

争」を何度も経験してもなお、人権が保障されていない現状があるのはおかしいと感じた。生まれながら持つとされる権利が、権力や武力の横暴によって失われてしまうという現実を許してはいけないと思う。そして、これをニュースで見た人が、具体的な行動は起こせなくとも、一人一人が自分の意見を持って、関わっていく姿勢を持つことが、この事態を改善していくための一歩だと考える。なぜなら、実際に圧政や紛争に対峙している人たちは、勇気を持って反対するという意見を行動に起こしているからだ。悪い現実に対してただ見ているだけの傍観者にならずに、苦しむ人たちの幸福を目指して一歩を踏み出す。これが、「人権」を持つ全ての人々に出来ることだと僕は考える。

このように、僕が何気なく日常生活を送っている傍ら、人権侵害の被害を受けている人はたくさんいる。この作文で挙げた以外にも、学校ではいじめ、職場では〇〇ハラスメント、家庭では子供に対する虐待など、至るところで人権に関わってくることがたくさん起こっている。そのようなニュースが流れても、最近はコロナウイルスもあってそれどころではないと、風化してきているのではないか。苦しんでいる人が今もいるのに、見なかったフリをしたり、関心を持たなかったりするのとはおかしいと思う。だから、もっと多くの人が、人権についてもっと知っていき、一人一人が考えていく必要があると思う。また、日頃ニュースで僕たちが目にする言葉の数々は、人権に関わるものが多い。僕自身も、この作文を書いて、この事実が気について驚いた。そのような経験をこれからの人生に少しでも生かせるように日頃から物事への関心を高めて、人権について被害を受けている人がいたら、優しく手を差しのべられるような人になりたいと思った。